

『もろこみ』キャッシュ・バックキャンペーン実施中!

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み1万円に含まれています。
さらに、車を返却する必要もありません。

「私は、一日300円で

車を買いました。」



カーコンビニ倶楽部 〒108-0075 東京都港区港南2-11-19 大滝ビル
☎0120-0120-55 <http://www.carcon.co.jp>

『車業界の転換期(3)』

8月4日に豊田社長がトヨタとマツダがそれぞれ500億円を投じ、共同で新しい会社を作ることを発表した。さらに2021年には、トランプ政権の意向を受けたかどうかは別にして、2000億円規模の生産ラインで、おそらく環境適応と自動運転を組み合わせた新商品を作るための工場をアメリカに作るという。

この記者会見で印象的だったのは、豊田社長が冒頭で述べた、「時代は変わった。ライバルも変わった。これからの時代は、海図のない海をゆく船のようだ」と言ったことだった。

さらに付け加えて、「新しいライバルはGoogleでありAppleを始めとした旧来の車業界とは異なるIT企業や、人工知能などの新しい産業の会社なのである」ということである。

この会見に注目し、考えねばならないのは、車業界という言葉すら、近未来的にはなくなるということである。

このコラムを通して私が1年間述べてきたように、車業界にとっても、人間の生活にとっても、革命的な変化がもう目の前に来ている。おそらく2020年あたりを境に、嵐のような秩序の混乱と整備が行われる。移動体記憶装置とセンサーカメラを持った移動体、しかもその移動体に地図データを乗せただけでなく、人間の感情もコントロールする全く新しい物体が誕生するということである。

この商品は、過去のライフスタイルを変える市場を作り出すということだけでなく、未来の地球が持つ様々な問題を解くヒントになっている。これは世界的なレベルの環境問題や高齢化問題も、解決のきっかけになる可能性を秘めているし、地球の平和や地球における人類のあり方など、現在の私たちではどうすることもできない大きく覆い被さった難題を解決する可能性があるということである。

一方で、ロボットの人工知能(AI)が盛んに紙面を賑わせているように、2040年、我々はシンギュラリティ(技術的特異点)、つまりAIが人類の知能を超える転換点を迎え、またそれによる世界の変化を、どうコントロールするかということが大きな課題になるとも言われている。

「物の豊かさ」から「心の豊かさ」を求めていくということや、私たちが戦後何十年も考えてきた「科学技術と人間社会の新しい関係」を、カーコンビニ倶楽部は提案しなければならない時期にある。



林 成治 Seiji Hayashi
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
1981年4月:プロミス株式会社入社
2008年4月:同社執行役員就任
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
2008年10月:同社代表取締役就任
2009年8月:バル債権回収株式会社 常務取締役就任
2010年4月:株式会社Do フィナンシャルサービス取締役就任
2011年1月:同社取締役退任
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任